

環境研究総合推進費令和 7 年度事後評価個票

研究課題番号	S2-9-1
研究課題名	県外最終処分を実現させるための技術システムの開発研究
研究実施期間	2022（令和 4）年度～2024（令和 6）年度
研究代表機関名	国立環境研究所
研究代表者名	遠藤 和人

1．評価結果

評価ランク：A

2．委員の指摘及び提言概要

溶融飛灰を主な対象とし、熱処理および洗浄・吸着濃縮による安定化方法および安定化体の放射性 Cs 濃度と量を因子とする処分方法の分類による複数シナリオを提示し、物質収支やコンクリート構造物の封じ込め性能等に関する技術的知見の収集と合わせ減容化戦略を構築することが目標とされた。Cs の選択吸着係数および陽イオン交換容量特性値をもとに、任意の飛灰洗浄液の組成と液固比から Cs 吸着挙動の計算を可能としたこと、最終処分対象固化体からの Cs 溶出挙動への影響因子を明らかにしたこと、封じ込めセメント系材料の基本物性データ、高濃度共存物質が及ぼす影響解析とその軽減に係る知見を提示したことなど着実な成果が得られたと評価される。一方、それらが実装に値するかに関して、さらに飛灰の処理シナリオ以外の観点も含めた最適シナリオの選定方法に関する技術的検討が今後望まれる。また、維持管理費を含めた処理コストおよび全体的な経済性評価が今後の課題と考えられた。